

とんがらし通信

おそろのドレスで



ショッピング



No.277

～主な内容～

- ・施設長コラム
- ・活動紹介

(夏まつり コンサート
バス×ランチ ほか)

- ・突撃!!インタビュー ・職員コラム
- ・研修報告 ほか

仙台つどいの家 編集室

発行責任者 山口収

発行日 2025年 9月25日

〒983-0836

仙台市宮城野区幸町3丁目12-16

Tel 022(293)3751 Fax 022(293)3752

E-mail sendai@tsudoinoie.or.jp

ホームページ <http://www.tsudoinoie.or.jp>



嗚呼、昭和ノスタルジー の巻

今年の夏は暑かった～！ってここ数年毎年この書き出しになっている気がします。。でもホントに今年の暑さは異常でしたよねえ。6月～8月の全国の平均気温は平年と比べて2.36度も高かったそうです。昨年も暑い夏でしたが、平年比1.76度高ということなので、『異常な高温』と言われるのも納得です！世界でも同じような現象が起きていて、各地で干ばつや洪水が起こっているのはニュースで毎日のように取り上げられています。ちなみに平均気温が1度上昇すると…1日の降水量は約7%上昇し、猛暑日の発生回数は1.8倍になり、世界の食糧生産は一人当たり1日お茶碗0.5杯分減収になるそうです。地球環境に配慮した生活を心掛けないと、すべてしっぺ返しが来るということですね。。

さてそんな暑い暑い夏でしたが、今年はテレビ各局で『終戦80年』『昭和100年』というワードが溢れていました。テレビっ子（おっさんだけ）で昭和世代（おっさんだもの）の私は、そういう番組が大好きで、興味深く懐かしく観ました。私の世代は戦争の爪痕や空気を肌で感じられるギリギリの世代です。子どものころはお祭りや縁日に行くと、決まって入り口で傷痍軍人さんが軍服を着て義足をさらけ出しアコーディオンやバイオリンを弾いていたものでした。また、私の祖父は私が高校生の頃に亡くなりましたが、戦争体験者であり幼いころから戦時中の話をよく聞かされていました。いわゆる職業軍人ではなく徴兵されて陸軍に配属されます。中国からインドネシアのハルマヘラ島を転戦し、爆弾の破片で失明し復員しました。失明により仕事を失ったことから鍼灸師の資格を取り自宅で開業します。小学校の頃は夏休みなどはほとんどを祖父母の家で過ごしたりしましたが、頑固な明治男の祖父が愛想よく患者さんと話しているのを見て不思議な感覚になったことを覚えています。

どんどん思い出してきた！祖父母の家は茨城県の土浦というところにあり、私が住んでいた東京の駒込からは電車で1時間半ほどかかりました。当時はJRではなく『国鉄』。都区内の切符は自動券売機で買えましたが、土浦までの切符は窓口で購入する『硬券』でした。まだ自動改札機はなく、駅員さんが見事な手際で切符に『はさみ』を入れてくれます。カチャカチャとリズムよく切符を切る姿はカッコよかったなあ。小さな駅舎の前には『赤電話』と『伝言板』が置かれていました。『30分待った。先に行く！』とか書いてあったりして。。当時のホームは汚かった。古いレールでできたホームの柱には、決まって『痰ツボ』と『灰皿』が置いてあったなあ。それでも大人たちはそこそこに痰を吐き、線路に火のついたタバコを投げ捨てていたっけ。電車の網棚の上には、読み終わった『雑誌』や『新聞』が。そうやって置いて（捨てて）いくと、次の人が拾い上げて読んだりして。。通勤時間には信じられない数の人が駅に吸い込まれていきました。今でいうと乗車率200%くらいじゃないかと思うくらいの超満員電車で、『押し屋』さんと呼ばれる駅員さんが次々と通勤客を押し込んでいくのでした。。う～ん。懐かしい！

懐かしついでにさらに昭和の思い出を！私が住んでいたのは『社宅』でした。各企業とも昔は社宅が多くあり、4階建てくらいの古いアパートタイプのものが一般的でした。家賃は破格で、都内の3LDKなのに3,000円～5,000円程度。そうしてお金を貯めて郊外に家を持つという流れです。同じ会社に勤めている者同士でプライバシーがあまりなかったり、上司と部下の関係が日常の中にまで入ってきたりと、親たちはタイヘンだったと思いますが、子どもにとっては友達がたくさんいい環境でした。『国鉄』や『三菱』『住友』などの社宅に住んでいる友達以外は、商売をしている家の子が多かったように思います。薬屋さん・米屋さん・洋品店…いろいろなお店がありましたが、中でも子供心に羨ましかったのは『駄菓子屋さん』『お寿司屋さん』『ケーキ屋さん』の友達でした。。毎日美味しいもの食べてんだろうなあ…と。そんなわけがないにねえ。年に1回の楽しみは、そういう友達の『誕生会』に行くこと。当時は仲の良い友達を呼んで誕生会を開くのが流行っていたのですね。ある時お寺の友達の誕生会に行った時には、檀家さんからの戴き物を山のようにお土産に持たせてくれて驚いた！『呼ぶ呼ばないで問題になるから誕生会禁止！』という今では考えられない昭和の面白話ですね。（管理者 山口 収）

突撃!! インタビュー



実習生 工藤佳奈さん（東北福祉大学4年生）

今回は、3年生の頃から実習で来てくださっている工藤佳奈さんにインタビューしました！いつも柔らかい雰囲気、利用者さんと丁寧に関わってくださっています。（記：鈴木）

①障がいの分野に関心をもったきっかけは何ですか？

大学2年次に生活介護事業所でインターンシップを経験し、初めて障がいのある方と交流しました。その際に、利用者の方々が熱心に作業に取り組み、笑顔を見せてくださる姿に触れ、障がいのある方への支援に興味を持ちました。

②利用者さんと関わっていて楽しいこと・難しいことは何ですか？

楽しいと感じることは、利用者さんの笑顔を見ることです。少しずつ信頼関係が築かれていく中で、ふとした時に見せてくださる笑顔に、喜びとやりがいを感じます。一方で難しいと感じるのは、食事や車椅子などの介助です。私は、大学で専門的な介護技術について学ぶ機会が少なかったため、仙台つどいの家での実習を通じて、利用者さんへの介助の仕方を学ばせていただいております。今後は、在学中に介護職員初任者研修を取得し、就職後には介護福祉士の資格も目指すことで、より質の高い支援を提供できるようスキルアップしていきたいです。

③今後、仙台つどいの家での経験をどのように生かしていきたいですか？

仙台つどいの家では、「利用者主体の支援」について学ばせていただきました。特に、言葉でのコミュニケーションが難しい方でも、その方に合ったコミュニケーションの取り方で気持ちを汲み取る姿勢や、非言語的なコミュニケーションを用いて関係性を築いていく支援者の方々の姿に感銘を受けました。今後はこの経験を活かし、その人らしさを尊重した関わりを常に意識しながら、利用者一人ひとりの思いに寄り添える支援者を目指していきたいです。



職員コラム

今回は！もみじグループ 鈴木 洵矢さん じゅんや

今年の9月より、仙台つどいの家もみじグループに入職いたしました鈴木洵矢（じゅんや）と申します。福祉の仕事は始めてなのですが、身近に介護の仕事をしている者がいて、また親族に利用者さんと同じ境遇の方がいます。ずっと関わりたいと思う中決心し、私を受け入れてくださり感謝しかないです。

ここで関係ないのですが、最近起きた出来事を少し話させてください。先日とある神社に行きました。神社のすぐ隣が保育園で、園児の皆さんがお庭で楽しく遊んでいました。行き帰りで必ず前を通る事になり、行く時は何事もなかったのですが、帰り際に園児の皆さん総出で『〇〇ちゃんバイバイ！！』と私の車に向かって満面の笑みで手を振ってくれました。車には大人しか乗っておらず、私をお友達と間違えるなんてことは100%ありえないので正直驚きましたが、無下にも出来ず手を振り返しました。見えなくなるまでずっと手を振り続けてくれたのですが、その神社には始めて行ったので一体なんだったのか謎です。実は今までも、見知らぬおじさんに手を振られたり、知らない学生さんに不意に挨拶されたりと度々そういうことがあります。こんな不思議なことに出くわす私ですが、先輩方のご指導を仰ぎながら精一杯努めてまいりたいと思っております。どうか長い目で見ていただけると幸いに存じます。ご一読ありがとうございました。

夏まつりを行いました！！

8月2日(土)夏まつりを開催しました。これまで仙台つどいの家の夏まつりは毎年快晴だったのですが、なんと今年は雨予報、！もし雨が降ったとしても、地域の方とおまつりを楽しみたい。そんな思いから考えたのは、晴れでも雨でもお祭りを楽しめる「ハイブリット型」の会場設営です。ステージは例年通りの屋外ステージの他に、館内のホールにもスペースを設けました。飲食ブースも、外にも館内にもテーブルと椅子をセッティングし、どちらでも飲食を楽しめるようにしました。

こうして迎えた夏まつり本番、スタート時から地域の方が続々と訪れます。外の屋台にはお父さん方の協力のもと、焼きそば、焼き鳥にフランクフルト、ビールなどがズラリ！縁日メニューを楽しんでいました。お祭りひろばブースではお菓子すくいや光るおもちゃが大人気！子どもたちが次々と集まってきます。

そんな中、そろそろステージが始まる…というタイミングで、ゲリラ豪雨が、！外でお祭りを楽しんでいた方々が一斉に館内へ避難します。本当に雨が降ってしまった…と落ち込みそうになっていましたが、ステージのトップバッターである幸町中学校吹奏楽部の皆さんが、そんな気持ちも雨も吹き飛ばす晴れやかな演奏を、館内のステージでしてくださいました。そこからは、晴れたら外へ行き、雨が降ったら館内へ、を繰り返しながらの夏まつりでした。三線サークル子ぬ方(にーぬふぁー)の沖縄民謡、東北高校チアリーダー部、白百合女子大学の聖歌隊 tutti、幸南復興太鼓とステージは続きます。サンバを奏でる「D-Project」さんは、屋外のステージで演奏していたら、演奏の盛り上がりとともにどんどん激しい雨が、！中断するかと思いきや、それでも雨をも味方に笑顔で、全力で演奏する姿に胸がジーンとしました。ステージの締めくくりは宮城学院女子大学よさこい部の皆さんです！活気のある音楽と共に、演者さんもお客さんも、職員もひとつになって踊り、最高のフィナーレとなりました！

そして去年に引き続き、今年も大抽選会を行いました！今回も日頃お世話になっている地域のお店や企業の方のご協力もあって多くの景品があり、すっかり晴れた屋外で、大盛り上がりの中夏まつりを終えることができました。

一時は大雨でどうなるかと思いましたが、それでも絶えることなく地域の方々に来ていただき、雨が降っても夏まつりはみんなで楽しめる！ということが実感できました。来年も地域の方々と一緒に楽しめたら嬉しいです♪

(記：大竹)



バスで街ブラへ！

齋藤司さん、高橋邦明さんで仙台駅方面へ街ブラに行ってきました～！

仙台市営バスに事前連絡しノンステップバスで来ていただき、普段車椅子に乗っている司さんでも楽に乗車出来るようスロープもつけていただきました！

最初の目的地は仙台朝市。新鮮なお魚や野菜、お惣菜が並んでいる仙台の台所です。最初に足を運んだのはたくさんの揚げ物が並んでいる「ころっけや」。揚げ物の香りに誘われるのか平日にも関わらず行列ができていました。司さんも邦明さんも昔ながらの味わいのコロッケやハムカツを購入し、司さんはもっと食べたいようでかわりをしています。

そのまま直進して目を引いたのはおにぎりの「あみ」。宮城県産のひとめぼれがふんわりと握られていて同行した職員もその美味しさに感動しました。お腹を満たした後は邦明さんのご希望で楽天イーグルスのユニフォームを買いにいきました。邦明さんは昨年楽天観戦をした時のユニフォームを毎日大事に着ていて、少し古くなってきたので東口にあるグッズショップへ行き服を選んでいました。タオルやハンカチも気に入りましたが、ロゴが入った紫のTシャツを購入しました！思い思いの買い物が終わりバスに乗ってつどいの家に帰りました。

司さんはまだまだ食べたりないようでしたし、邦明さんは演歌のCDが欲しかったようなのでまたバスに乗って街に行きたいです！（記：松原）



つどいコンサート

ダブル!!

先日、仙台つどいの家で2つのコンサートが開かれました。まずは、SMGさんのゴスペルのコンサート。力強く響く歌声とリズムに、利用者さんは自然に手拍子をしたり、一緒に口ずさんだりと大盛り上がりでした。しっとりとした曲では胸がいっぱいになり、感動の涙を見せる方も。最後には出演者さんと利用者さんが一緒になって歌い、会場全体が温くなりました。



続いて開催されたのはArtway Duoさんのバイオリンとピアノのコンサートです。クラシックの名曲や日本で馴染みのある曲が奏でられ、穏やかで豊かな時間が流れました。美しい音色に聞き入る姿、リズムに合わせて体を揺らす姿、バイオリンの音に合わせて一緒に演奏しているかのように腕を動かし楽しんでいる姿など、皆さんそれぞれに音楽を楽しんでいました。



どちらのコンサートも利用者さんにとって心に残る時間となり、音楽の力を改めて感じる機会となりました。またSMGさん、Artway Duoさんにお会いできる日を楽しみにしています。出演者のみなさま、お越しいただいた地域のみなさまには心より感謝申し上げます。（記：早坂）





研修報告

訪問の家「朋」

7月10日より3日間、研修で訪問の家「朋」に行かせていただきました。「朋」は横浜市栄区にある生活介護事業所で、通所されている方全員が医療的ケアを必要とする方です。主な活動内容はクッキーやハーブソルト、和紙作りなどで、目標の売り上げや個数を居室に掲げてモチベーションをあげ、一人ひとり責任をもってお仕事をしていました。私がグループ実習で入らせていただいたのは、だいちグループで比較的若いメンバーさんが多く、クッキーのラベル貼りやボウリングなどの活動に参加させていただきました。印象に残っているのは、1日外出を控えているメンバーさんとその日食べる昼食の買い出しに同行させていただいたことです。よく利用しているという近くのスーパーにはお客様用のエレベーターがないため、従業員用のエレベーターを使って2階まで移動しました。普段からメンバーさんが利用しているため、こちらが声をかけると従業員の方は当たり前のように快く案内してくださいました。このやり取りからメンバーさんを介して地域との関係性が構築されている場面を垣間見ることができ、改めて地域に出ることの大切さを感じることができました。医療的

ケアを必要とする方にとって歳を重ねるということがとても意味があるというお話が心に残り、その背景があるから職員の方々の細やかな支援につながっているのだと考えることができました。とても充実した研修でした、ありがとうございました。（記：鈴木芽）



デイセンターふれあい

7月に東京都武蔵野市にあるデイセンターふれあいで3日間実習させていただきました。デイセンターふれあいは生活介護の事業所で、20名ほどの利用者さんが通所されています。高次脳機能障害の方など、普段の支援で関わることの少ない方もいらっしゃいましたが、好きなことなど利用者さん自身から発信してもらえる場面が多くあり、関わりを楽しむことができました。

ふれあいの活動で特徴的なのが、自助具を用いた創作活動です。ふれあいでは革細工や織物などの製品を作って「つむぐと」というブランド名でマルシェや販売会などで販売しており、「作品を名刺代わりに地域とつながる」ことをモットーにしています。製品を作る際、利用者さん自身の手で作業ができるように自助具を用いており、身体の一部だけでも操作できるような自助具を用いることで、身体的な障害で作業が難しい方でも刻印を押したり、糸を巻いたりすることができます。職員が手を加えず、本人の力で作業が出来ることが本人の達成感や自己有用感にもつながると感じました。実際に販売している製品も完成度が高く、安売りしていないことに好感を持ちまし

た。

利用者さんの手で作った製品で地域とつながっていくのが素敵で、利用者さんと職員さんの関わりも温かく、魅力的な事業所でした。3日間ありがとうございました。（記：菅原）



東北福祉大看護学科の実習

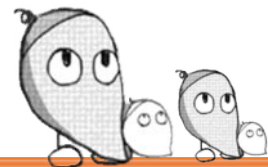
8月26・27・28日の3日間と、9月2・3・4日の3日間で東北福祉大学の看護学科1年生の施設実習が行われました。看護師を目指す学生さんに、医療的ケアがある利用者さんが地域で看護師のサポートのもと、どのように生活しているのか。看護学科を卒業した後の就職先として、病院以外で生活介護の施設を選択肢として考えてもらうことが出来ないか。病院の実習の前に病院以外での看護師の仕事の様子を見てもらい体験してもらいました。感想をいただきましたので、一部ご紹介します。

篠田：今回の実習を通して、しょうがい者支援とは単に日常生活の補助をすることではなく、一人ひとりの心に寄り添い、その人の尊厳や希望を大切にする営みであるということを学んだ。支援員の方々の姿勢から学んだ「待つこと」「信じること」「尊重すること」、そして「伝えようとする努力」は、今後自分がどのような場面に立ったとしても大切にしていきたいと思う。実習を通して自分自身の中にも「支援とは何か」「人に関わるとはどういうことか」という問いが生まれ、それに真剣に向き合う貴重な機会となった。これからの学びの中でも、今回の経験を原点として持ち続けていきたい。

有馬：仙台つどいの家での3日間の実習を通して、支援の現場には多様な工夫があることを学んだ。支援員は表情、身振りや視線を読み取りながら関わり、些細な変化も見逃さない観察力が求められていた。食事や移動の介助では、器具の選択や環境の整え方によって、利用者が自分らしく生活できるように支えていることを知った。また、発作や失禁など突発的な出来事に対しても、安心と尊厳が守られていた。音楽療法や作業活動などを取り入れることで、生活に喜びや達成感を生み出していた。さらに、地域とのつながりを重視する姿勢から、施設が単なる生活の場にとどまらず、社会と利用者を結ぶ架け橋の役割を果たしていることを学んだ。

柏倉：実習を通して、コミュニケーションは言葉だけのものではなく、表情や視線、手足の動き、手話など様々な形があり、利用者さんの小さなサインを見逃さずに気持ちを理解することの大切さを学んだ。自分でできることは利用者さんに任せる様子が何度も見受けられ、残存機能や意思、持っている能力を引き出すことができるような支援に感銘を受けた。この支援が利用者さんの自立を促し、達成感や自分の存在意義、生きがいを感じることに繋がっていると身をもって実感した。また、利用者さんの気持ちや希望を尊重しようとする職員さんの姿勢や優しさが、利用者さんに安心感を与え、笑顔の絶えない場になっていると感じた。しょうがいのある方と関わる際には、個性や気持ち、考えを尊重し、相手に合ったコミュニケーションツールを活用しながらサポートを行っていきたい。3日間ありがとうございました。





スケジュール schedule

令和7年 10月

10月1日(水) 法人防災訓練
 10月2日(木) 音楽療法
 10月4日(土) つどいマルシェ
 10月6日(月) 給食提供お休み
 10月9日(木) 生け花
 10月10日(金) フードドライブ
 10月15日(水) ダンス・リズム・ダンス
 10月16日(木) 音楽療法
 10月17日(金) フードドライブ
 10月20日(月) アートの日
 10月22日(水) ケース会議 13時30分降所
 10月23日(木) 生け花
 10月24日(金) 給食提供お休み
 10月27日(月) 職員会議
 10月30日(木) 音楽療法



令和7年 11月

11月3日(月) 休日開館日
 11月5日(水) ダンス・リズム・ダンス
 11月6日(木) 音楽療法
 11月13日(木) 生け花
 11月14日(金) フードドライブ
 11月20日(木) 生け花
 11月21日(金) 全体職員研修 13時30分降所
 11月24日(月) 休日開館日
 11月25日(火) ケース会議 13時30分降所
 11月27日(木) 音楽療法、職員会議



編集後記

子供たちが大好きな梨の時期がやってきました♪我が家では、毎日のように梨を食べています。最近では週末になると、梨農家さんがやっている直売所にせっせと通い、梨の時期を楽しんでいます。(小沢)

ご協力ありがとうございます ボランティアとして協力して頂いた皆様

(7月14日～9月12日まで)

吉田さん、日下さん、平さん

見学・来訪者など

音楽療法: 向井田先生・山崎先生・渋谷先生、生け花: 濱谷先生、ダンスリズムダンス: 早坂先生、ソーシャルインクルー岩切・七北田、仙台白百合女子大学 tutti、ピーススマイル(石道さん、上原さん)、ウェルポート、フォーレスト、宮城教育大学(高橋さん)、明成高校(岩佐さん)、東北大学チア部、ゆあらいふ、日々全力、ブルーム、幸南復興太鼓、東北福祉大学工藤先生、保健看護学科学生さん、インターンシップ(齋藤さん、井上さん)、夏のボランティア体験(佐々木さん、熊谷さん)、やまと往診クリニック、やさしい手、ネコロボマン、仙台ひまわり訪問看護ステーション、アートインクルージョン、守屋材木、福祉工房、菅井先生、阿部先生、訪問看護ハピネス、大崎ひまわり訪問看護ステーション、MAHALO+、おもいやライフ(高倉さん)、ヤマハ遠藤さん、風の郷工房、ヤクルト、マルキ水産、サトー商会、ほまれフーズ、ダイエイミート、あぐり仙台、日本テクノ、日本食研、東北食材、ホシザキ東北、UCC、ほか多数

法人職員: 理事長、佐吉、飯田、三浦、後藤、彩乃、佐々木、健、大累、桑原、太田、靖志、小野(麻)、福地、小原、高杉、坂本、菊地 (以上ご芳名敬称略・順不同)

介護職員初任者研修
11月受講生大募集!!

CHECK!



缶回収

7月・9月分の納品額

合計 18169円 でした。

ご協力ありがとうございました。

